

球磨川の瀬

球磨川には瀬と淵が多数存在し、豊かな自然環境を形成しています。球磨川には48箇所の有名な瀬が存在し、それぞれ名前の由来が残されています。

ここでは、特に有名な五大瀬について紹介します。

急流球磨川の五大瀬

日本三急流の球磨川。その魅力は、全長18kmの球磨川下りで満喫できる。随所に四十八瀬と呼ばれる瀬や岩が息つく間もなく現れ、激流と共に独特の景観が川下りの醍醐味となる。

特に、熊太郎、高曾、二俣、修理そして網場の瀬は、五大瀬と呼ばれる激流で、波しぶきは舟内にまでも飛び込み、舟は大きく上下左右に揺れ動き緊張感も最高潮に達する。



熊太郎の瀬・・・石灰岩の大断崖を川が深くえぐって流れているところ。威容を示すため、へさに立てた相良公の大槓もここでは倒さねばならなかったという。



網場の瀬(あば) 五大瀬の五つ目。昔、ウグイがよく採れた所。投げ網を打ったり下に網をはったりするのが盛んだった。



修理の瀬(しゅり) 五大瀬の四つ目。船頭は、この瀬の上流で「オーイ、オーイ」と瀬声をあげて、水神さんに挨拶し瀬下りの安全を祈った。瀬声を怠った時は難破し、修理をしなければならなかったといわれている。



熊太郎の瀬 五大瀬の最初。熊太郎は、相良公妾腹に生まれた子とか。跡目争いに敗れ、わずかな家臣とともに川舟で逃れようとしたが果たせず、この辺の河原で追っ手の軍勢と戦い討ち死にしたと伝えられている。



高曾の瀬(たかそ) 五大瀬の二つ目。川下りの記念撮影がされるところ。写真屋さんも大変。白波をかきわけ、連続してくる舟。それをいずれも真ん中に納めなければならない。「もう一枚」がきかない。



二俣の瀬(ふたまた) 五大瀬の三つ目。景観的にも代表的な所で、急流の写真スポット。容赦なく水がかかるため、川舟からの叫び声が川に響く。



槍倒しの瀬



修理の瀬



熊太郎の瀬



高曾の瀬

二股の瀬

